

第2期須賀川市まち・ひと・しごと創生総合戦略 令和5年度実績評価について

1 概要

本市では、人口減少社会に向き合い、地域経済縮小を克服するため、平成27年10月に「須賀川市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。令和2年3月には「第2期須賀川市まち・ひと・しごと創生総合戦略」(以下「本総合戦略」という。)として改訂し、本市ならではの強みや特長を最大限生かしながら、「まち・ひと・しごとの好循環」を具体化するための施策戦略に取り組んできました。

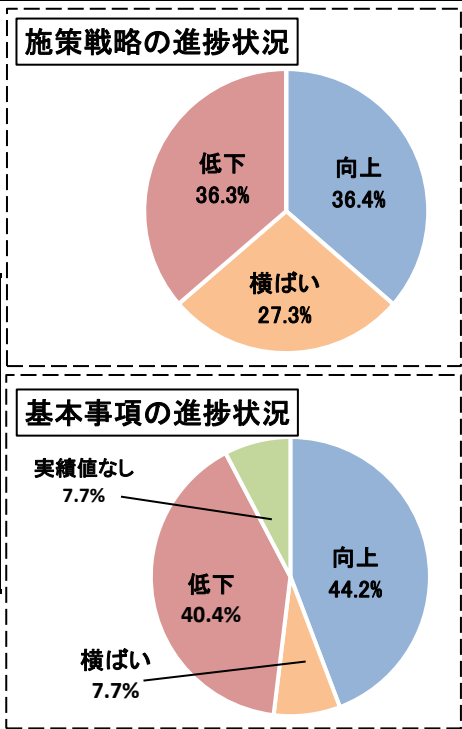
本総合戦略は、4つの基本となる柱のもと、11の数値目標、52の重要業績評価指標(KPI)を設定し、PDCAサイクルによる継続的な業務改善を行っており、今回、最終年度となった令和5年度の実績について取りまとめました。

2 戦略全体の評価結果

本総合戦略は、期間の大部分が新型コロナウイルス感染症の影響下にあり、あらゆる分野で経済活動が落ち込み、市民活動などにおいても様々な制約が生じたほか、国際情勢の悪化による急激な物価高騰の影響を受けることとなりました。

このような困難な状況下においても、本総合戦略に基づき、あらゆる社会変化に対応しながら、全庁的に取り組んだ結果、施策戦略の数値目標の進捗状況としては向上と横ばいの合計が63.7%、目標値の達成割合が18.2%であり、基本事項のKPIの進捗状況としては向上と横ばいの合計が51.9%、目標値の達成割合が30.8%であり、全体的な動向としては、向上と横ばいの割合が過半を占めていることから、持続可能なまちづくりに向けて着実に前進したものと考えます。

基本となる柱	施策戦略の数値目標						基本事項のKPI					
	向上	横ばい	低下	実績値なし	合計	達成	向上	横ばい	低下	実績値なし	合計	達成
1 産業力を強化するまちづくり	1	0	2	0	3	1	8	0	4	2	14	7
2 すかがわの宝を生かしたまちづくり	1	1	1	0	3	0	5	0	7	0	12	4
3 子どもたちの笑顔あふれるまちづくり	0	1	1	0	2	0	5	1	5	1	12	1
4 健康な暮らしを守るまちづくり	2	1	0	0	3	1	5	3	5	1	14	4
合計	4	3	4	0	11	2	23	4	21	4	52	16
割合	36.4%	27.3%	36.3%	0.0%	100%	18.2%	44.2%	7.7%	40.4%	7.7%	100%	30.8%
	63.7%						51.9%					



3 検証

市内各界各層の代表者をはじめ、外部有識者で構成する須賀川市まちづくり推進会議において、令和5年度実績評価に対する検証を行い、評価手法に関することも含め様々な意見をいただきました。

評価結果と須賀川市まちづくり推進会議での意見等を踏まえながら、令和6年度からの第3期となる総合戦略『須賀川市デジタル田園都市構想総合戦略』についても総合計画と一体的に地方創生を推進していきます。

備考 各数値目標及び重要業績評価指標(KPI)について

- ・重要業績評価指標(KPI): 事業ごとの進捗状況を検証するために設定する指標(目標値)です。
- ・令和4年12月に国が「デジタル田園都市国家構想総合戦略」を策定したことに伴い、国の戦略を勘案した「地方版総合戦略」を新たに策定するため、本総合戦略の計画期間を1年間延長し、令和2年度から5年度までとしています。
- ・「R5年度実績値」及び「進捗状況・達成状況」欄の「ー」は、市民アンケート、国勢調査など各種調査による数値のため該当年度に実績値が未取得であるもの、または、新型コロナウイルス感染症の影響により事業が実施できなかったため実績がないものです。

1 産業力を強化するまちづくり

数値目標	基準値(H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	R5年度実績値	目標値	進捗状況・達成状況
有効求人倍率(年平均)	1.26倍	0.93倍	1.06倍	1.17倍	1.07倍	1.3倍	↘

【数値目標の傾向】
 新型コロナウイルス感染症の影響による一時的な落ち込みや長引く物価高騰などの影響もあり、基準値からは低下していますが、企業の経済活動の回復に伴い、企業の求人数も回復傾向にあります。

【施策戦略の総合評価】
 物価高騰の影響などを大きく受けた中小企業、小規模事業者の事業継続、雇用の維持を図るため、物価高騰対策支援金の交付や地元企業見学会「須賀川TECツアーズ」の実施など各種支援に取り組みましたが、企業の経済活動がコロナ禍以前の水準まで回復しておらず、目標値には及びませんでした。引き続き、商工会議所や商工会などの関係機関と連携しながら支援に努めるとともに、地域経済の活性化への取組を通して雇用の維持、創出を図る必要があります。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	R5年度実績値	目標値	進捗状況・達成状況
市内立地企業数(平成25年度以降の累計)	7社	9社	9社	9社	11社	10社	↗ 目標値達成
市内立地企業による雇用数(平成25年度以降の累計)	158人	221人	221人	221人	240人	200人	↗ 目標値達成
【主な状況、成果、課題等】 本市の持つ立地条件の優位性や各種企業立地支援制度による企業誘致の結果、令和5年度は新たな企業の進出があり、いずれの指標も目標値を達成しています。 企業誘致は、地域経済の活性化を図る上で重要な事業であることから、引き続き、社会経済情勢や企業の動向などを注視しながら、空き工場バンクの活用や関係機関との連携などにより、市内への企業誘致を図る必要があります。							

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	R5年度実績値	目標値	進捗状況・達成状況
市及び関係機関で行っているセミナー等参加者数	143人	84人	411人	503人	504人	160人	↗ 目標値達成
ふるさと回帰支援事業利用者数	11人	7人	7人	19人	5人	15人	↘
【主な状況、成果、課題等】 「市及び関係機関で行っているセミナー等参加者数」は、合同就職面接会や企業・業界合同説明会などにより、求職者や学生と企業とのマッチングの機会を設けるなど、様々な手法による就職支援に努めたことで、参加者数は基準値から大きく向上しており、目標値を達成しています。 「ふるさと回帰支援事業利用者数」は、補助金交付対象を就職活動や職業訓練をした学生などからインターンシップ受入事業者へ変更した初年度であったことから、制度の周知が進んでおらず、利用件数が減少したものと考えられます。若者などの地元定着を図るため、引き続き、UIJターンでの就業促進の取組を進めるとともに、ニーズに応じた支援制度の拡充を検討する必要があります。							

施策戦略1-(2) 農業の担い手の育成・確保と地域特産物ブランド化の推進

数値目標	基準値(H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	R5年度実績値	目標値	進捗状況・達成状況
農産物の売上額(JA)	4,983百万円	4,960百万円	4,623百万円	4,365百万円	4,713百万円	5,000百万円	↘
【数値目標の傾向】 基準値から低下していますが、令和5年度は比較的好天が多く、病害虫の発生も少なかったことから前年度と比べ向上しています。 【施策戦略の総合評価】 出荷量、販売額ともに農家戸数や作付面積の減少、農業従事者の高齢化や後継者の不足、自然災害などにより、概ね横ばいか低下傾向にあります。地産地消の推進や市内外の販路拡大に努め、農家の所得の安定、向上を図るとともに、新規就農支援や農地集積の推進、スマート農業の普及、拡大などに努めていく必要があります。							

基本事項① 農業担い手の育成・確保

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	R5年度実績値	目標値	進捗状況・達成状況
認定農業者率	7.7%	7.0%	6.8%	6.8%	11.0%	9.3%	↗ 目標値達成
担い手への農地利用集積面積(累計)	3,061.3ha	3,238.1ha	3,417.6ha	3,493.6ha	3,520.1ha	3,500ha	↗ 目標値達成
【主な状況、成果、課題等】 市・県農業普及所・JAなどで組織する市農政推進連絡会議において一貫した新規就農支援を実施したことなどにより、認定新規就農者数が増加したこと、また、農地中間管理機構を介した担い手への農地集積が進んだことにより、いずれの指標も目標値を達成しています。引き続き、認定農業者となるメリットの周知や新規就農支援、中核的担い手農家への農地集積などに取り組むとともに、農業所得の安定、向上を図る必要があります。							

基本事項② 農産物の生産振興

重要業績評価指標(KPI)	基準値(H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	R5年度実績値	目標値	進捗状況・達成状況
代表的な産地指定農産物のJA出荷量 (キュウリ)	5,270t	4,962t	5,099t	4,239t	5,404t	6,440t	↗
代表的な特産農産物のJA出荷量 (日本ナシ)	1,156t	684t	580t	918t	598t	1,290t	↘
【主な状況、成果、課題等】 キュウリについては比較的好天が続き、病害虫の発生も少なかったため出荷量が増加しましたが、日本ナシについては高齢化や後継者不足から果樹園地が減少傾向にあることや凍霜害による農業災害が発生したため、出荷量が減少しました。高齢化や後継者不足などの影響により、本市の農業従事者数は減少傾向にあるため、引き続き、国県などの補助を活用した栽培環境の向上や効率化、農業担い手の確保に努め、生産基盤の強化を図る必要があります。							

基本事項③ 特産農産物の販売促進

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	R5年度実績値	目標値	進捗状況・達成状況
代表的な産地指定農産物のJA販売額 (キュウリ)	1,885百万円	1,801百万円	1,433百万円	1,692百万円	1,761百万円	1,900百万円	↘
代表的な特産農産物のJA販売額 (日本ナシ)	293百万円	324百万円	207百万円	306百万円	232百万円	365百万円	↘

【主な状況、成果、課題等】

キュウリについては出荷量の増加に伴い、販売額も前年度から増加しました。日本ナシについては凍霜害による農業災害が発生したため、出荷量の落ち込みがありましたが、災害後の好天による生産量の回復や全国の出荷状況による販売単価の上昇などもあり、販売額を下支えしました。引き続き、地産地消の推進、特産物のPRや販路開拓、第三者認証GAPの取得推進など、地域特産物のブランド化を図る必要があります。

施策戦略1－(3) 商工業の競争性の向上

数値目標	基準値(H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	R5年度実績値	目標値	進捗状況・達成状況
経営状況が良いと感じている事業所の割合	16.7%	8.3%	17.7%	11.7%	20.1%	20.0%	↗ 目標値達成
【数値目標の傾向】 新型コロナウイルス感染症の5類移行により行動制限が解除され、経済活動が回復したことにより向上したものと考えます。 【施策戦略の総合評価】 企業の経済活動は回復傾向にあり目標値を達成しましたが、不安定な国際情勢や円安による物価高騰などの影響を踏まえ、既存企業の経営基盤の強化や伴走型支援などの各種支援策の検討が必要と考えます。一方、中心市街地においては、休日歩行者通行量が増加傾向にあり、新規出店も増えるなど、にぎわいの創出が図られているため、引き続き、効果的な支援策により、地域経済の活性化を図る必要があります。							

基本事項① 商工業の育成支援

重要業績評価指標(KPI)	基準値(H28)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	R5年度実績値	目標値	進捗状況・達成状況
市内卸売・小売業年間売上高	131,949百万円	—	—	131,570百万円	—	133,000百万円	— —
市内製造品出荷額等	167,352百万円	162,704百万円	159,833百万円	173,121百万円	—	200,000百万円	— —

【主な状況、成果、課題等】
「市内卸売・小売業年間売上高」及び「市内製造品出荷額等」は、経済センサス活動調査などにより取得していますが、令和6年9月時点で公表されていないため、令和5年度実績値は取得できませんでした。引き続き、工業製品の認定やふるさと商品の販路開拓支援、中小企業の人材育成や企業間のネットワーク構築支援など、既存企業の育成支援に努めるとともに、エネルギーなどの物価高騰の影響を踏まえた支援を検討する必要があります。

基本事項② 中心市街地の活性化

重要業績評価指標(KPI)	基準値(H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	R5年度実績値	目標値	進捗状況・達成状況
休日歩行者通行量	1,960人/日	2,992人/日	3,871人/日	3,862人/日	4,801人/日	2,400人/日	↗ 目標値達成
新規出店数(3年間の累計)	18店舗 (2013～2018)	12店舗 (2020)	23店舗 (2020～2021)	37店舗 (2020～2022)	43店舗 (2020～2023)	20店舗 (2020～2022)	↗ 目標値達成
【主な状況、成果、課題等】 市庁舎や市民交流センター、風流のはじめ館の開館から時間が経過し、施設が広く認知されたことで、中心市街地を訪れる機会が増え、まちなか回遊がさらに促進されたことで、いずれの指標も目標値を達成しています。引き続き、関係機関と連携しながら、市民交流センターを核として、中心市街地の玄関口となるJR須賀川駅周辺エリアとPark-PFIを活用して整備したカフェや飲食施設、温浴施設を擁する翠ヶ丘公園エリアを繋ぐなど、中心市街地全体で回遊性の向上を図り、中心市街地のさらなる魅力向上に繋げる必要があります。							

2 すかがわの宝を生かしたまちづくり

施策戦略2-(1) 特撮文化拠点都市の構築とブランド力の向上

数値目標	基準値(H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	R5年度実績値	目標値	進捗状況・達成状況
特撮文化が須賀川市の特長だと思う市民の割合	87.5%	87.5%	—	88.8%	85.2%	90.0%	→
【数値目標の傾向】 基準値と比べ横ばいですが、高い水準で推移しています。							
【施策戦略の総合評価】 数値目標は高い水準で推移しており、円谷英二ミュージアムや須賀川特撮アーカイブセンターなどの特撮文化関連施設、特撮やウルトラマンの関連イベントなどを通して、特撮文化が市民にとって、身近になってきていると考えられます。引き続き、特撮文化関連施設、関係機関などとの連携を密に図りながら、地域の特色ある資源を活用する各種施策に取り組むとともに、積極的な情報発信に努める必要があります。							

基本事項① 特撮文化拠点都市の構築・発信

[illegible]

基本事項② 地域資源・ブランドを活用したイメージアップの推進

[illegible]

施策戦略2-(2) スポーツ振興によるイメージアップ戦略の展開

数値目標	基準値(H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	R5年度実績値	目標値	進捗状況・達成状況
スポーツに親しんでいる市民の割合	56.2%	55.6%	—	58.1%	61.0%	65.0%	↗

【数値目標の傾向】
基準値及び前年度と比べ向上しています。

【施策戦略の総合評価】
新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、市民のスポーツ活動や各種大会が再開されたこと、福島スポーツエンタテインメント株式会社との間で締結したパートナーシップ協定に基づく連携事業により、本市におけるスポーツ振興を図ったことで向上につながったものと考えます。引き続き、市民ニーズを踏まえた大会や教室を開催するなど、安全、安心にスポーツに親しむことができる機会の充実に取り組む必要があります。

基本事項① スポーツによるイメージアップの推進

[illegible]

基本事項② 生涯スポーツ活動の推進

重要業績評価指標(KPI)	基準値(H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	R5年度実績値	目標値	進捗状況・達成状況
スポーツ大会・教室の参加者数	34,579人	5,615人	7,806人	10,723人	11,557人	41,800人	↘
スポーツ施設の利用者数	526,436人	249,415人	404,976人	464,262人	426,338人	601,500人	↘

【主な状況、成果、課題等】
新型コロナウイルス感染症の影響により、施設の休館やスポーツ大会など各種事業の中止・規模縮小などを行ったほか、コロナ禍を契機とした市民の意識の変化により、円谷幸吉メモリアルマラソン大会など参加費のあるイベントの参加者が減少しましたが、各種大会や市民のスポーツ活動などの再開に伴い、いずれの指標も回復傾向にあります。引き続き、スポーツに触れる様々な機会を提供しながら、各種大会などの参加者数の増加により生涯スポーツ活動の推進に努める必要があります。

施策戦略2-(3) 地域資源を活用した観光振興と交流の推進

数値目標	基準値(H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	R5年度実績値	目標値	進捗状況・達成状況
休日14時に本市に滞在していた人数	58,685人	59,046人	58,517人	57,918人	56,961人	60,400人	↘

【数値目標の傾向】
 前年度より県外からの来訪者は増加したものの、市外へ移動した市民も増加したと推測され、基準値及び前年度と比べ低下しています。
 ※県外からの訪問者(4月～6月累計) 東京都 R4:1,070人⇒R5:1,210人、宮城県 R4:874人⇒R5:915人、埼玉県 R4:712人⇒R5:811人、神奈川県 R4:673人⇒R5:767人 など

【施策戦略の総合評価】
 市民交流センターの来館者数や市街地中心部における歩行者通行量は増加傾向にあり、中心市街地における滞在人口の増加が見られるものの、市全体としては減少傾向にあることから、引き続き、関係機関と連携して、多様化する観光ニーズに柔軟に対応する施策に取り組む必要があります。

基本事項① 文化交流拠点を活用した交流の推進と文化の創造

重要業績評価指標(KPI)	基準値(H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	R5年度実績値	目標値	進捗状況・達成状況
市民交流センター来館者数	153,163人 (H31.1.11～3.31)	369,103人	485,485人	560,006人	639,565人	600,000人	↗ 目標値達成
文化芸能の活動をしている団体に所属している市民数	3,982人	3,384人	3,055人	2,734人	2,661人	5,000人	↘
【主な状況、成果、課題等】 「市民交流センター来館者数」については、開館から時間が経過し、施設が広く認知されたことで年々増加傾向にあり、目標値を達成しています。また、「文化芸能の活動をしている団体に所属している市民数」については、各団体の会員の高齢化などにより、退会者数が増加していることや、会自体の解散などにより団体数が減少しており、基準値及び前年度と比べ低下しています。 引き続き、文化施設や市民交流センター、コミュニティセンターが連携することで、幅広い世代の市民が文化活動に参加できるよう努めていく必要があります。							

基本事項② 観光振興やインバウンドなどの推進

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	R5年度実績値	目標値	進捗状況・達成状況
観光庁策定「観光入込客統計に関する共通基準」に係る観光入込客数	1,247,266人	782,400人	962,149人	972,987人	1,159,200人	1,500,000人	↘
福島空港の利用者数	267,356人	68,355人	97,250人	180,919人	229,520人	300,000人	↘

【主な状況、成果、課題等】
新型コロナウイルス感染症の影響などによるイベントの中止や規模縮小があったほか、国際線の運休や国内定期路線の減便などにより、観光入込客数、空港利用者数ともに落ち込んでまいりましたが、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、観光需要が戻りつつあることや、令和6年1月からの台湾チャーター便の運行再開などにより、両指標とも回復傾向にあります。
引き続き、県や周辺自治体など関係機関と連携しながら、須賀川らしい観光資源や空港所在自治体のメリットを生かした魅力的な事業展開に取り組む必要があります。

3 子どもたちの笑顔あふれるまちづくり

施策戦略3-① 安心して出産・子育てができる環境の充実

数値目標	基準値(H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	R5年度実績値	目標値	進捗状況・達成状況
この地域で子育てをしたいと思う3歳児以下の子どもを持つ保護者の割合	96.9%	97.1%	97.6%	97.1%	96.1%	97.0%	→

【数値目標の傾向】
 基準値及び前年度と比べ横ばいですが、高い水準で推移しています。

【施策戦略の総合評価】
 妊娠時から出産・子育てまで、一貫した伴走型相談支援を行うなど、安心して出産・子育てができる環境の充実に努め、切れ目のない支援に取り組んでいるため、高い水準で推移しています。一方で、待機児童の解消には至っておらず、保育士などの人材確保や施設整備支援などの対策を講じるとともに、延長保育や預かり保育、一時保育、病児・病後児保育などの特別保育の受け入れ環境の整備、充実に取り組んでいく必要があります。

基本事項① 幼児教育・保育、学童保育などの充実

重要業績評価指標(KPI)	基準値(H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	R5年度実績値	目標値	進捗状況・達成状況
保育所、幼稚園、こども園の待機児童数	20人	26人	51人	20人	16人	0人	↗
放課後児童クラブの待機児童数	3人	51人	56人	74人	26人	0人	↘

【主な状況、成果、課題等】
「保育所、幼稚園、こども園の待機児童数」については、私立認定こども園の開園や私立認可保育所の増築による定員増のほか、保育士確保などに対する財政的支援により、受入れ定員が増加したことから、基準値と比べ向上しています。また、「放課後児童クラブの待機児童数」については、待機児童の多かった須賀川一小児童クラブ館及びぼたん児童クラブ館において、それぞれ公共施設を活用した分館を設置したことで、利用定員が増加し、特に高学年の待機児童数が減少したことで、前年度と比べ大きく向上しました。
しかし、依然として待機児童の解消には至っていないことから、引き続き、私立保育施設の整備支援、保育士確保への財政的支援などに取り組み、待機児童解消に向けた受入れ定員の拡大に努める必要があります。

基本事項② 子育て支援の充実

重要業績評価指標(KPI)	基準値(H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	R5年度実績値	目標値	進捗状況・達成状況
子育て支援事業を利用した保護者の数	31,358人	16,936人	21,130人	25,614人	32,194人	32,000人	↗ 目標値達成
こどもセンター施設利用者数	28,404人 (H31.1.11～)	28,616人	38,052人	47,034人	57,346人	80,000人	↗

【主な状況、成果、課題等】
「子育て支援事業を利用した保護者の数」は、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、子育て支援センターの開所日数が増えたことやこれまで利用を控えていた世帯の利用が増えたこともあり、目標値を達成しています。また、「こどもセンター施設利用者数」は、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、行動制限などが緩和されたことで、利用者数(特に市外)が増加し、基準値及び前年度と比べ向上しています。
引き続き、こどもセンター、子育て世代包括支援センターなどの連携により、安全・安心な子育て支援事業の提供に努める必要があります。

基本事項③ 妊産婦と子どもの健康管理支援体制の充実

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	R5年度実績値	目標値	進捗状況・達成状況
ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間がある母親の割合	87.8%	90.6%	90.4%	90.1%	90.1%	91.0%	↗
乳幼児健康診査における問診項目(10項目)が全国の直近の平均値を上回る項目数	7項目	8項目	7項目	9項目	6項目	10項目	↘

【主な状況、成果、課題等】

各種子育て支援事業や母子保健事業の実施により保護者の満足度が向上し、「ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間がある母親の割合」は、高い水準で推移しています。一方で、育児期間中の親の喫煙率、飲酒率の増加などが要因となり、「乳幼児健康診査における問診項目（10項目）が全国の直近の平均値を上回る項目数」は、基準値及び前年度と比べ低下しています。

引き続き、社会環境の変化や子育てのニーズを捉えつつ、母子の健康づくりへの支援を進める必要があります。

施策戦略3-(2)「小中一貫教育」須賀川モデルの推進

数値目標	基準値(R01)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	R5年度実績値	目標値	進捗状況・達成状況
ふくしま学力調査において正答率が県平均を上回っている科目数	2/10科目 (20.0%)	—	1/10科目 (10.0%)	1/10科目 (10.0%)	1/10科目 (10.0%)	7/10科目 (70.0%)	↘
【数値目標の傾向】 「ふくしま学力調査において正答率が県平均を上回っている科目数」は1科目でしたが、授業と授業研究を第一優先に学校づくりを推進しており、10科目中8科目における学力レベルは県平均と同等となっています。 【施策戦略の総合評価】 目標値に遠い状況であるため、教職員のニーズを踏まえた教科教育研修講座や授業づくり研修会の充実など、各学校の授業改善に向け取り組むとともに、学校、家庭、地域社会が連携することで、子どもたちの学びを保障できる環境を確保し、活用力や思考力の育成、不登校児童・生徒に対するきめ細かな対応などに努める必要があります。							

基本事項① 開かれた学校づくりの推進

[illegible]

基本事項② 確かな学力の向上と環境整備

重要業績評価指標(KPI)	基準値(H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	R5年度実績値	目標値	進捗状況・達成状況
小6における国語・算数の正答率が県平均を上回っている科目数	0科目	—	0科目	0科目	0科目	2科目	→
中3における国語・数学の正答率が県平均を上回っている科目数	1科目	—	1科目	0科目	0科目	2科目	↘
【主な状況、成果、課題等】 両指標とも県平均を上回っている科目はありませんでしたが、授業と授業研究を第一優先に学校づくりを推進しており、学力レベルは県平均と同等となっています。 引き続き、児童・生徒の学力向上のため、教員が主体的・対話的で深い学びの見て取れる授業の実践に取り組み、また、ICTや教員の働き方改革を含む教育環境整備を図るなど、様々な教育的ニーズに応じて学校の教育活動がスムーズに運営できるよう取り組む必要があります。							

基本事項③ 心の教育の推進

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	R5年度実績値	目標値	進捗状況・達成状況
1,000人当たりの不登校児童・生徒数	13.0人	9.8人	9.8人	15.7人	18.4人	8.1人	↘
不登校児童・生徒学校復帰率	12.0%	5.0%	6.8%	10.6%	10.1%	30.0%	↘

【主な状況、成果、課題等】
不登校の要因や背景が複雑化しており、学校生活や家庭、人間関係などのストレスを感じている児童生徒が増えていること、また、学校復帰に当たっては、基本的な生活習慣の確立や人間関係形成力の育成など、多くの指導を粘り強く継続する必要がある、解決や短期間での復帰が難しいなど、複数の要因によりいずれの指標も低下しているものと考えます。
引き続き、不登校となる問題の未然防止、個々の要因や背景に応じたきめ細やかな指導、相談機会の拡充などに努めるとともに、家庭や関係機関と連携して、在籍校訪問や体験学習の実施など学校復帰に向けた支援に組織的に取り組む必要があります。

4 健康な暮らしを守るまちづくり

施策戦略4-① 全世代が健康な暮らしが続けられるまちづくりの推進

数値目標	基準値(H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	R5年度実績値	目標値	進捗状況・達成状況
この1年間に健康診断を受けている市民の割合	74.4%	70.1%	—	78.3%	78.6%	80.0%	↗
【数値目標の傾向】 関係部署間で連携した広報、周知に努めており、対象者に向け健康診断の必要性が周知されたことで向上しているものと考えます。 【施策戦略の総合評価】 効果的な広報、周知に加えて、集団検診の再開や医療機関への受診控えが解消されてきたため、堅調に推移しているものと考えます。引き続き、未受診者に対する受診勧奨に取り組むとともに、様々な機会による受診案内など、受診率向上に努める必要があります。							

基本事項① 生涯を通じた健康づくりの推進

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	R5年度実績値	目標値	進捗状況・達成状況
健康長寿健診の受診率	11.3%	—	—	—	—	13.0%	— —
ふくしま健民カード発行件数	47件	39件	42件	21件	39件	100件	↘

【主な状況、成果、課題等】
「健康長寿健診の受診率」は、新型コロナウイルス感染症の影響などにより、健康長寿健診が再開できていないため、実績値はありません。「ふくしま健民カード発行件数」は、前年度と比べると向上していますが、基準値からは低下しています。
現在は、中学校学区を単位としてBMI(体の大きさを表す指標)、血圧、血糖などの健診結果有所見率をまとめ、地区別の傾向を周知するなど、生活習慣の改善による病気の発症予防や重点化予防が図られるよう地区担当保健師をはじめ医師会、健康づくり推進員、食生活改善推進員などと連携して取組を進めているところであり、引き続き、これらの取組と合わせて、保健師、管理栄養士などによる健康教育、健康相談、訪問指導に取り組むことで、市民の健康づくりの推進を図る必要があります。

基本事項② 病気の早期発見・早期治療の推進

[illegible]

施策戦略4-(2) 地域医療体制の充実と健康寿命の延伸

数値目標	基準値(H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	R5年度実績値	目標値	進捗状況・達成状況
地域で支え合う仕組みづくりができていると思う高齢者の割合	56.8%	55.6%	—	49.6%	53.6%	65.0%	→
【数値目標の傾向】 前年度から向上していますが、基準値と比べ概ね横ばいです。							
【施策戦略の総合評価】 介護予防の推進に関する指標はいずれも目標値を達成しており、地域医療の充実に関する指標についても、新型コロナウイルス感染症の影響が落ち着いたことから概ね向上傾向にあるものと考えます。引き続き、状況を的確に捉えながら関係機関との連携を図り、地域医療の充実と地域包括ケアシステムを推進し、地域で健康に暮らし続けるための取組を進める必要があります。							

基本事項① 地域医療の充実

[illegible]

基本事項② 介護予防の推進

重要業績評価指標(KPI)	基準値(H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	R5年度実績値	目標値	進捗状況・達成状況
健康的に自立した生活ができている高齢者の割合	81.2%	81.1%	81.2%	81.4%	81.3%	81.2%	→ 目標値達成
新規要介護認定者出現率	4.9%	3.7%	3.5%	3.4%	3.8%	4.9%	↗ 目標値達成
【主な状況、成果、課題等】 高齢者人口が増加している中、介護予防に関する普及啓発や重度化予防の取組を継続して実施してきたことにより、自立した生活ができている高齢者が増え、いずれの指標も目標値を達成しています。今後も、多種多様な「通いの場」の把握・創出、新たな介護予防・社会参加の場の選択肢を広げるため、生活支援コーディネーターなどと連携を深めながら、フレイル予防・介護予防の周知啓発や生きがいつくり、健康づくりに取り組むことができる「通いの場」などの普及に努める必要があります。							

施策戦略4-(3) 住み続けられるまちづくりの推進

数値目標	基準値(H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	R5年度実績値	目標値	進捗状況・達成状況
市民活動に参加している市民の割合	8.2%	6.1%	—	5.5%	11.0%	10.0%	↗ 目標値達成
【数値目標の傾向】 新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、地域行事などの再開や開催方法の見直しが進められたことで、前年度から向上し、目標値を達成しています。 【施策戦略の総合評価】 目標値を達成していますが、人口減少や少子高齢化、生活様式や価値観の変化など、市民生活にも変化が生じており、引き続き、地域住民や関係機関などと連携を図りながら、地域活動や人材育成などの支援を通して、地域課題の解決や地域コミュニティ活動の活性化に取り組み、住み続けられるまちづくりの推進に努める必要があります。							

基本事項① 交通網の充実

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	R5年度実績値	目標値	進捗状況・達成状況
公共交通の乗車人員	1,159,833人	1,068,041人	855,959人	874,115人	895,683人	1,190,000人	↘
交通手段がなくて困っている市民の割合	6.2%	5.2%	—	6.3%	9.1%	6.0%	↘

【主な状況、成果、課題等】
人口減少や生活様式の変化などから公共交通機関利用者は減少傾向にありますが、新型コロナウイルス感染症の影響などによる大幅な減少からは回復傾向にあります。また、高校の統廃合による路線バスの廃止・減便などにより、「交通手段がなくて困っている市民の割合」は増加傾向にあります。
引き続き、交通弱者対策や交通不便地域解消に努めるとともに、地域の特性を考慮した持続可能な交通手段についての検討を進め、地域住民や関係機関などと連携を図りながら、公共交通網の維持・充実を図る必要があります。

基本事項② 地域コミュニティ活動の推進

重要業績評価指標(KPI)	基準値(H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	R5年度実績値	目標値	進捗状況・達成状況
市民・行政・地域がそれぞれ協力しあって地域課題に取り組んでいると思う市民の割合	67.5%	68.3%	—	55.1%	65.7%	76.0%	→
ふるさとづくり支援補助事業実施件数	40件	37件	11件	2件	0件	45件	↘

【主な状況、成果、課題等】
「市民・行政・地域がそれぞれ協力しあって地域課題に取り組んでいると思う市民の割合」は、前年度から向上していますが、基準値と比べ横ばいです。「ふるさとづくり支援補助事業実施件数」については、補助対象地域を市内全域から過疎地域に変更したことや新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴う地域行事などの再開への対応などから本事業の実施には至らなかったものと考えます。地域コミュニティ活動においては、少子高齢化、生活様式や価値観の変化などにより、地域活動が中止や縮小している傾向にありますが、持続可能なまちづくりを推進するためには、地域コミュニティ活動の活性化は重要であることから、引き続き、市民と行政が協働して、自治会活動の活性化支援などに取り組む必要があります。

基本事項③ 持続可能な環境都市の構築

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	R5年度実績値	目標値	進捗状況・達成状況
住宅用再生可能エネルギー等システム 設置補助利用件数	1,563件	1,855件	2,025件	2,184件	2,343件	1,900件	↗ 目標値達成
リサイクル率(再資源化率)	17.2%	15.8%	15.8%	15.9%	16.2%	18.0%	↘

【主な状況、成果、課題等】

「住宅用再生可能エネルギー等システム設置補助利用件数」は、再生可能エネルギー利用に対する意識の浸透や電気料金の高騰により、再生可能エネルギーシステムを設置する家庭が増加していることから、基準値と比べ780件増加しており、目標値を達成しています。また、「リサイクル率(再資源化率)」については、全体的に一般廃棄物の処理量が減少したことから、相対的に資源物の割合が増えたため、前年度からは向上したものと考えられます。

引き続き、市民・事業者と協力しながら、持続可能な環境都市の構築に向けて、再生可能エネルギー導入や省エネルギー・省資源の推進をはじめ、ESD環境教育の実施、ごみの分別や再資源化の啓発などに取り組んでいく必要があります。